

# 何のための決算書

まず、税金のための決算書です。

果たしてそれだけでしょうか。そもそも事業を存続し、業績を上げるために、帳簿を作成するのである。そして「経営の目的」のため過去と現在と未来を把握するために必要不可欠なものである。目的が明確であれば、具体的な「方針」や「目標」が定ま

り、向かう方向と未来が見えてきます。

健全な経営のため、見る地図のようなものです。すべては現在の確認からです。すなわち現状と実態の把握です。そして課題や問題点を抽出する。改善計画を作成して実行です。

そもそも過剰な借入金に頼らない姿勢で、利益を上げ自己資金の保有を高める経営が大事です。

なぜ、外から借入をしなければならぬのでしょうか。真剣でなかったからでしょうか。そうではないと思います。投資でない借入は、結局は想定した成果を上げられなかったからです。

総資産に対する自己資本比率、一般に自己資本比率が高いほど負債（借金）が少ないことになり、結果として借入金金の負担がないこと、資金の返済期限がないために資金繰りが楽である等の理由から健全な経営であるといえます。

借金から行われるものです。それ以外の返済は自己資本からの返済か、借金からの返済で自転車操作です。融資する金融機関の問題点は免れませんが、しかし返済責任を経営者と保証人がすべて負わなければなりません。

企業活動においては、いかに正しい方法で成果を上げるかということが、問題になります。

貧すりや鈍するでは寂しすぎます。誠意をどれだけ成果に込めたのか、私達は常に問わなければなりません。当事務所は、この誠意をこれまでどれだけ込められたか、実際には全く十分とは言えない状態と考えています。誰しも自問自答を繰り返して行わなければならないのです。

## 良心と誠意

良心は良い心といいますが、自分にとって、社会一般の価値観に照らして、ことの可否ないし、善悪を測る心の働きのことである。したがって自分の規律なのです。

皆様方から異常や対処の未熟等について、厳しい指摘を積極的且つ大胆に頂きたいものです。

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

## 事務所便り

2010年11月8日(月) NO. 154

地域から明るい未来を作ろう

この時代「縮の時代」は、経営は事業の安全性が最重要視され負債が大きく影響します。

もの道理に反した望みは欲深いのです。なぜそうなるのでしょうか。



不幸とは真相を知らないこととです。真実を知らないことである。

また「治にいて乱を忘れず」の備えを心がけたい。

中小企業の平均値はさらに低く、資本金3億円以下の製造業で13・1%、資本金1億円以下の卸売業で13・2%、資本金5,000万円以下の小売業で7・1%、サービス業で16・7%である。(出典：中小企業庁平成18年「中小企業の財務指標」)